

①臨濟宗佛通寺派の本山で、1397年の創建とされる。



Nikon F-801, AF Zoom-NIKKOR 35-70mm F3.3-4.5, XRG100

②戦国大名の1人。一代で、中国地方ほぼ全域に勢力をおよぼすようになった。

③毛利元就の三男。



Nikon F-801, AF Zoom-NIKKOR 35-70mm F3.3-4.5, XRG100

ただし、これから夏休み。大勢の子どもたちが「すべり滝」を訪れるだろう。そんなところでカメラを構えていると、妙な趣味をもっていると誤解されかねない。相手が子どもであろうとなかろうと、勝手に写真を撮られるのは、気持ちよいものではない。周囲にはモミジもあったので、秋、涼しくなってから、本気で訪れるのがよいかもかもしれない。

国道486号線を通り、山陽自動車道の三原久井ICを過ぎると、佛通寺^①方面へつづく県道がある。真夏に佛通寺を訪れたことがなかったので、立ち寄ってみる。

佛通寺へ行く途中に、「昇雲の滝」という立札があった。クルマを停めて、矢印のさすほうにくだっていくと、道が2つに分かれている。どっちだろう？なにも書いていないので、まっすぐに進んだ。道は行き止まりになるが、そこは展望台のようで、滝の全体が見渡せる。かなりの大きな滝だ。しかしながら、水はずいぶんとり奥まったところで落ちており、日光があたっていない。曇りの日のほうが、撮影しやすいだろう。ここも、標準系のレンズで十分に楽しめそうだ。

佛通寺への道は、ところどころよくなっているが、離合の困難な箇所も多い。佛通寺に着いたが、この時期は、観光のオフシーズンなのだろうか、人は少ない。売店なども、閉まったままである。本堂の向かいの山の上には、「開山堂」という建物がある。中世の佛通寺開山当時からある貴重な建物だそう。秋の紅葉の時期には、落ちついた佇まいを見せてくれる。夏の姿はどうだろうか。「開山堂」に登ってみると、補修工事中で拝観不可であった。そういうことは、登らなくてもわかるよう、登り口に書いておいていただきたい。

さらに、広島空港にも寄ることにした。地図を見ると、途中に「女王滝」というものがある。道を進むと、「NHK大河ドラマ毛利元就^②・小早川隆景^③ゆかりの地」という幟がたくさん立っている。さらに、こんな看板があった。

NHK大河ドラマ毛利元就ロケ地

タイトルバックに使用の女王滝

地図上ではあまり目立たぬ女王滝は、じつは見ごたえのある滝らしい。女王滝に近づくと、その付近は公園として整備されていた。公園のほうへ進む。ふと見ると「この先 料金所」。おいおい、有料なのか。しかたない、ちゃんと撮影の装備を整えて次回にしよう。と、ということで、広島空港で飛行機を眺めて帰ってきた。

1997年07月20日(日) 天気 : はれ
水蒸気の迫力

津和野へ行ってきた。愛車購入記念の遠出は秋吉台だったが、愛車の長患いの退院記念は津和野になったわけだ。

勘違いしている人が多いようなので念のために書いておくが、津和野は島根県にある。山口県ではない。ツアーなどで「萩・津和野」がセットされていることが多いせいかな、どちらも山口県だと思われがちだが、津和野は島根県である。

今年の春、小さな新聞記事が目にとまった。それは、津和野で温泉の探査中に、^{かんばつせん}間歇泉を掘りあてたというものだ。間歇泉とは、一定時間ごとに勢いよく噴出する温泉である。津和野の間歇泉は、最高で高さが55mに達するという、日本で最大の間歇泉だという。

今日は、その間歇泉を見て、どんな写真が撮れそうか下見をすることが主目的である。ボディ2台とレンズ5本のごく軽装備とする。

津和野の町の中をクルマで通りすぎ、約4kmすすむと現地に到着する。田んぼのまん中に臨時の無料駐車場が用意されている。無料駐車場は間歇泉からわずか200mしか離れていないが、間歇泉正面の道路上に多くのクルマが駐車されている。そこは道がきわめて狭いため「駐車禁止」と書かれているにもかかわらず、た。一般の観光客どもの常識のなさには、あきれかえるしかない。

温泉水をなめてみた。なまぬるく、かなり塩辛い。よくある、ナトリウム泉とよばれるものであろう。この間歇泉は約10分おきに噴出するのだが、周囲は田んぼである。塩分の強い温泉水が田んぼに降りかかると、稲の生育によくない影響が出る可能性があるのだらう。間歇泉は、高く噴出しないように覆いがされていた。風のないときやイベント時などには、覆いがはずされるようだ。覆いがされているとはいえ、間歇泉の噴出は、ものすごい迫力である。

そのとき、ポーツという大音響が周囲にとどろいた。つづいて、地の底からうなるような重量感のある音。顔をあげると、向かいの高台の上をC57「SLやまぐち号」が走っているではないか！たまたま、「SLやまぐち号」が津和野駅に着くころに、私も津和野に到着していたのだ。SLが走っている姿を見るのは、何年ぶりであろうか。かなり離れていた



Nikon F-801, AF Zoom-NIKKOR 35-70mm F3.3-4.5, XRG100

が、その音、姿の迫力は簡潔な文章では表現しきれない。

覆いのために間歇泉が絵にならないことがわかったいま、ターゲットは変更だ！

津和野駅に行って「SLやまぐち号」の帰りの時刻が15時23分発であることを確認し、鯉のいる水路などをスナップ撮影しながら津和野大橋へ向かう。そこは、山口線の鉄橋がよく見える場所だ。

小型三脚を立てて、Nikon F3をセットする。レンズはAi NIKKOR 135mm F2.8Sを選定。露出はマニュアルで、鉄橋を渡るC57を確実に撮る。Nikon F-801にはAF Zoom-NIKKOR 35-70mm F3.3-4.5をつけ、プログラムAEでなにも考えずとにかくシャッターをリリースする態勢だ。

「SLやまぐち号」発車の10分前にもなると、カメラを携えた多くの人たちが、橋の周囲に集結してきた。とくに鉄橋の向こうに、多くの人がいる。鉄橋のこちらから向こうへ場所を変えようとしている人たちは、口々に「こっちは逆光だからダメだねえ」。それが1人や2人ではなく、大勢いるのだ。どのような写真をつくりようと考えているのか、ということにもよるのだが、「逆光だからダメ」と決めつけるのは短絡的すぎないだろうか？しかも、太陽はまだ高く、とくに逆光補正が必要になるような状況ではない。

やがて、遠くで汽笛の音が聞こえた。

しだいに、車輪の音も近づいてくる。音がさらに大きくなった。茂みの向こうからC57が顔を出した。鉄橋にさしかかる。ここでNikon F3のシャッターをリリースし、すばやく巻きあげる。息をつく間もなく、画面の8割までC57が進んだところでもう1つリリース！さらに続けて、Nikon F-801を縦位置にかまえ、たてつづけにリリースする。そして、C57は通りすぎた。あとに客車が続く。その間、C57の煙が太陽を隠した。日食時に「すすフィルター」を通して見たときと同じ、オレンジ色の太陽が見える。わずかに10数秒のできごとであった。

あえて、大勢とはまったく違うポジションでカメラを構えたのだが、それがよかったか悪かったかは現像しないとわからない。いまからときどきする。

今日は被写体が、大自然の水蒸気から、人工の水蒸気へ変わってしまった。しかし、どちらも迫力満点であることは否定できない。ここは、ふたたび装備を整えて撮影に挑みたい場所である。



Nikon F-801, AF Zoom-NIKKOR
35-70mm F3.3-4.5, XRG100

津和野が山口県であるという誤解を受けるのは、「SLやまぐち号」の行き先が津和野駅である，ということも影響しているかもしれない。

1997年07月21日(月) 天気：はれ

「男もすなる写真といふものを、女もしてみむとて…」

観光地や風景撮影の名所のようなところで立派な一眼レフカメラを構えているのは、圧倒的に男性が多い。最近は、一眼レフカメラを使っている女性も珍しくはないが、数の面ではまた圧倒的に男性が多いように見える。昨日訪れた津和野という場所は、一眼レフカメラを携えた女性の数がかかなり多いと感じた。あまり詳しくは観察していないが、遠目に判断すると、その大きさから35～135mmクラスの普及型ズームレンズが主流であるように思われる。オジサン世代では、妙にNikon F4が目についたが、レンズはやっぱりズームレンズ。女性は、比較的小型のボディを使用しているようだ。

ほかの観光地などでカメラを使っている女性を見かけると、たいていはご夫婦あるいは何人かのグループで行動されているようだ。ところが津和野では、一眼レフカメラを持ってひとりウロウロする女性もみかける。津和野という町は、被写体として女性好みであることが考えられる。

ところで、目にしたなかでは、女性にかぎらず男性も、最近のオートフォーカス機ばかりである。観光地の写真であるから、結局スナップ的な撮影がおもになるのであろうか。そう考えれば、それは自然なことであると思う。実際、私もNikon F3とNikon F-801を用意していたものの、ほとんどNikon F-801で撮っていた。人混みの向こうを「子鷺踊り」の行列が通れば、カメラを片手で高くもちあげて、適当にレリーズする。AFカメラならではの芸当であるが、満足できる写真が撮れても、しょせんは偶然の産物。

ところで、SLの撮影の場合はどうか。相手は動いている。露出もピントも刻々と変化する。だから、オートフォーカス機で追いかけるのも1つの方法、動きを先読みして置きピンなどで撮影するのも1つの方法。いつも撮影するような「滝」とは異なり、1日1便しか走らないSLを撮影するチャンスは、一瞬しか存在しないのだ。



Nikon F-801, AF Zoom-NIKKOR 35-70mm F3.3-4.5, XRG100



Nikon F3, Ai NIKKOR 135mm F2.8S, EB

1997年07月22日(火) 天気: はれ

お部屋のお片付け

愛車が入院していた期間、お散歩写真とともに力をいれていたものがある。それは室内の静物写真である。

室内での撮影では、いわゆるライティングというものが重要になる。屋外では、自然の光を利用すればよいのだが、室内では光をつくってやらねばならないからだ。

1つの方法としては、電球を使う方法がある。自然な色を得るために、電球の色を見極め、適切なフィルタを用いる方法などがある。これは、それなりの勉強をしておかないと難しい。モノクロフィルムを使うことで、色の問題をごまかすのも1つの方法であり、逆に、電球による暖色系の発色を利用する方法もある。

もう1つの方法としては、フラッシュを使う方法がある。かなり自然な色に近い発色が得られる。しかし、ほんの一瞬しか光らないため、被写体に十分に光がまわっているか、不必要な影や反射がないかなどを見極めるのが難しい。影を目立たなくするために増灯したりすると、露出の決定も難しくなる。

技術的なことは、段階露出をするなどしてある程度カバーできるであろう。もっとも重要なものは、「よい被写体」をつくることだと思う。



Nikon F-801, AF Zoom-NIKKOR 35-70mm F3.3-4.5, XRG100

先日、ひさしぶりに観葉植物を買ってきた。それそのものを被写体にするため、あるいは被写体に添えてみたりバックを構成するために使う。買ってきたものは、サンセベリア(和名トラノオ)、ディフェンバキア、フィロデンドロン・セロウムの3つである。ディフェンバキアとフィロデンドロンはともにサトイモ科の植物である。エビプレナム(通称ポトス)といい、モンステラといい、観葉植物にはサトイモ科のものが多く。

これらを、通常は室内に置くために、部屋の整理をおこなった。こういうときでないと、なかなか片づけることをしないものである。整理した結果、室内の観葉植物は8鉢になった。オリヅルラン、フィロデンドロン・セロウム、ディフェンバキア、エビプレナム、サンセベリア、ノリナ、テーブルヤシそしてテーブルヤシとソテツの寄せ植えである。鉢を増やしてしまうと、朝の水やりがたいへんなことになるのだが…。

1997年07月26日(土) 天気：くもりときどき雨
ニコノスがほしい…

台風9号が中国地方で大暴れているが、私は出張で東京にいた。木曜日、金曜日が仕事で、その後、そのままとどまっている。朝から山陽新幹線が止まっており、台風は動く気配がない。日曜日に、広島へ帰ることができるのだろうか。

午前中は、中古カメラ店を巡回した。いつも立ち寄り新橋駅前の「大庭商会」には金曜日に訪れていたのだから、訪れるのはそれ以外のお店にする。

今回は、はっきりした目的がある。1つは、ニッコールの望遠レンズがほしい。先日、津和野を訪れて「SLやまぐち号」を見てしまい、列車を撮りたくなくなってしまった。現在、手もとにある望遠レンズはAi NIKKOR 200mm F4くらいなので、180mm F2.8, 300mm F4.5, Reflex 500mm F8といったレンズの購入を検討したい。もう1つの目的は、防水カメラがほしい。滝をもっと大胆なアングルから撮ってみたい、滝壺の近くにカメラを投げこんで水中のようすを撮ってみたいと考えている。もちろん、潜るようなことは考えていないが、できることならばニコノスがほしい。

宿泊は浅草に確保していたので、まずは営団銀座線^④で上野へ、そこから山手線で秋葉原へ行く。「カメラのニッシン」へ向かった。秋葉原駅の昭和通り口から出れば、少し先に見えている。2階が中古コーナーだ。あまり広くは感じないが、品数は充実している。なんと、マミヤプレス用のMamiya-Sekor 50mm F6.3にファインダーもフードもセットされたものに、29,000円という価格がつけられているではないか！なぜだ！超安い、安すぎる！^⑤他の商品についても期待したが、ニコノスはなかった。

続いてJR中央線に乗って、中野の「フジヤカメラ」へ向かう。訪れるのは、はじめてだ。お店の場所を知らなかったので中野駅の周辺をかなりウロウロし、ようやくたどりついた。おお、けっこう品物が豊富だ。望遠レンズも揃っているね、だいたい3万円～5万円くらい。ランクCの品ならば20,000円という格安なものもある。

「フジヤカメラ」には、ニコノスもあった。NIKONOS IV-Aに35mm F2.5レンズがついて36,000円というのは、試しに買ってもいい値段だ。なお、IV-A型ではなくV型は5万円をこえる。さすが、現行機種だ。



OLYMPUS XA2, D.Zuiko 35mm F3.5, XRG100

④現在の、東京メトロ銀座線。

⑤3月に広島でレンズ(ファインダー付)を4万5千円、5月に大阪でフードを5千円で買ったばかりである。

NIKONOS IV-AかReflex-NIKKOR 500mm F8のどちらかを、フジヤカメラで買ってしまおうと思った。しかし、まだお昼前。お楽しみは後にして、もう1件だけ訪れることにする。行き先は、目黒の「三宝カメラ」。新宿から山手線で目黒へ移動し、そこから目黒郵便局前というところまでバスに乗らなければならない。

「三宝カメラ」は、小さなお店だった。ぐるっと回って見たが、さがしている望遠レンズはない。クラシックカメラの並ぶケースの裏へ回ると、NIKONOS IV-Aに35,000円の値段がつけられており、「フジヤカメラ」より安い。これを買うことにしようと思ったが、実際に使うとなると専用フラッシュもほしくなるだろう。それを買うとなると、けっこう高いものになりそうである。そこで今日のところは「フジヤカメラ」にもどり、Reflex-NIKKOR 500mm F8の購入を再検討しようと考え、お店を出ようとした。出入口付近には、コンパクトカメラが並べられていた。なにげなく覗いたとき、その隅にあった機種に目がとまった。あ、これは…Nikon L35AWAD...ピカイチカリブだ！「ニコン ピカイチカリブ コーツデート」だ！

「ニコン ピカイチカリブ」は1986年に発売された、耐水深3mの水中カメラである。値段は13,500円だから、10年前のコンパクトカメラとしては高いようにも感じるが、「コニカ現場監督」などのふつうの防水カメラではなく、水中カメラだというのがポイントだ。「ピカイチカリブ」は、オートフォーカスカメラであるが、オートフォーカスは陸上でしかはたらかない。水中では、目測でボディ上部の距離ダイヤルをあわせるマニュアルフォーカスカメラとして使用することになる。GN10だがフラッシュも内蔵されているし、とりあえず水中撮影を体験してみようという意図には、十分だ。結局、今日はこれを買ってしまった。

このあと午後3時には、浅草で写真仲間と待ちあわせをしていた。すっかり時間を食ってしまったので、さっさと浅草へもどることにする。目黒郵便局前のバス停で確認すると、「東京駅南口」行きというのがあるので乗ってみたところ、途中、東京タワーを経由するなど気分は定期観光バスだ。

写真仲間は、6名が集まった。その中には、NIKONS Vを使っておられる方がいる。ニコンスを持参してきてくださったのなら、じっくり見せてもらおうと期待していたのだが、その方が用意されていたのは、RICOH GR1だった。



Nikon L35AWAD, Nikon LENS 35mm F2.8, GOLD400



ニコン ピカイチカリブで水中撮影をした例。セルフタイマーとフラッシュをセットし、ストラップをもって水中に沈めた。
Nikon L35AWAD, Nikon LENS 35mm F2.8, GOLD400

1997年07月27日(日) 天気：はれときどきくもり

国立科学博物館「ふしぎ大陸 南極」

台風も弱まって、山陽新幹線も動きだした。帰りを心配する必要もなくなったので、上野の国立科学博物館を訪れた。今年は、日本の南極観測40周年とのことで、特別展「ふしぎ大陸 南極展」が催されていた。上野駅の公園口を出れば、国立科学博物館は近い。入館料1,300円は、その内容から考えれば安いものに思える。

できれば早々に広島へもどるつもりでいたので、常設展は見ずに「ふしぎ大陸 南極展」だけを見ることにした。期待通りおもしろい。1997年11月16日まで開催しているので、東京近郊にお住まいの方はぜひ訪れるべきであろう。また、ミュージアムショップもおもしろい。「ふしぎ大陸 南極展」の解説書やペンギンの絵の描かれているマグカップなどを買ってしまった。

展示されているものの1つに、「オーロラ観測用全天カメラ」というものがあった。この「撮影日記」をご覧いただいている方の多くはカメラマニアだと思うので、ちょっと気になるのではないだろうか。つまりは、一定時間ごとに全天のようすを撮影する装置であるが、レンズは当然ながら魚眼レンズである。近づいて、よく見てみよう。こういう文字を読み取ることができる。

Fisheye-NIKKOR 6mm 1:1.4

これは間違いなく「特注品」だろう。カタログに載っているニッコールの6mm魚眼レンズは、1:2.8のものだ(それも受注生産品であるが)。

国立科学博物館を出ると、昭和基地の建物や最新型雪上車が展示してある。当然、なかに入ることができる。雪上車の車内は案外広いと感じた。そして上野公園をスナップ撮影しながら上野駅へ、そして東京駅へ移動。八重洲口地下で舟和の「芋ようかん」を買って、13時30分ころに「みどりの窓口」へ行った。17時42分発の「グランドひかり」の席をとっていたのだが、14時07分発の「グランドひかり」に変更してもらおうと思ったのだ。ところが、満席である。次の14時35分発は300系(のぞみ型車両)なのでパス。結局、15時07分発の「グランドひかり」の席を確保することができた。新幹線に乗るなら、やっぱり「グランドひかり」の2階がいいね。



Nikon L35AWAD, Nikon LENS 35mm F2.8, GOLD400